



ひなどり

園だより 4月号
令和2年4月6日
新潟市立新津第三幼稚園

ピンチをチャンスに変えるために

園長 間嶋 哲

「ピンチはチャンス」という言葉があります。もともとどこから生まれた言葉かは不明ですが、これを英語にすると「**Tough times bring opportunity.**」とか「**Adversity is the best school.**」とかの文になるそうです。直訳すれば「つらい時間は機会をもたらす」「逆境は一番の学校だ」くらいの意味になるでしょうか。

今、全世界が新型コロナウイルスと闘っています。この三月は、全国の小中学校のほとんどが休校し、新潟市立幼稚園でも同様の措置がとられました。私たち新潟市では、何とか再開することにはなりましたが、今でも東京や大阪など都市圏では、完全な学校再開の目途が立っていない状態です。楽観的な見通しをもつことはできません。

私たち新津第三幼稚園では、大きく二つの対策をとります。

一つ目の対策は、危険な環境に陥ることを可能な限り避けることです。この危険な環境というのは、先月9日にクラスター感染予防のために提唱されたものです。いわゆる「三密」を避けることです。「密閉」空間で、「密集」して「密接」に関わることを極力避けることを可能にするためにどうすればよいのか徹底して検討しました。これら「三密」を子どもの言葉に置き換えると、「ムムムン」して「ギューギュー」した場所で「ガヤガヤ」することを避けることです。果たしてそんなことができるのかという疑問が生まれます。小さな子ども同士のかかわりであれば、スキンシップを伴った関わりは、むしろ望ましい姿だからです。そうはいえ健康第一なのは間違いありません。換気を十分行ったり、活動場所を広げたりしていきます。一方、これまで行ってきた「わくわくふれあいタイム」や、バスを使つての園外保育、保育参観等については、五月末あたりまで自粛していく方針です。

二つ目の対策は、子どもへの保健教育として、一日数回の手洗いを行う時間を設定したり、マスクの着用を習慣づけたりします。ウイルスの感染は、接触感染と飛沫感染があることから、感染経路を断つための取組みです。きっと最初のうちは、「面倒だなあ」とか「息苦しいなあ」とかの負の感情も生まれると思いますが、ある意味では大切な健康教育、あるいは衛生的な生活習慣にもつながるものになると考えています。また、これまで以上に、ご家庭にも、毎日の健康カードへの記録等、ご負担をおかけすることになりますが、何卒ご協力ください。体調が優れないのにもかかわらず、頑張って登園するようなことがないよう、くれぐれもお願いします。

令和2年度は、63名の園児でスタートします。63名の子どもたちが、何よりも健康で、笑顔を絶やさない一年間になるよう、教職員一同で力を合わせて保育にあたります。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。